

委員会報告

台湾土木遺産視察ツアー実施報告

土木広報センター 土木リテラシー促進グループ長

鈴木 三馨（正会員）（株）コムスエンジニアリング、オフィスドボク

日本と台湾の
架け橋としての土木

毎年5月8日の命日に、台湾政府行政院農業委員会が主催して墓前祭が行われる土木技術者がいる。そう聞いてピンとくる読者は今や少なくないだろう。土木技術者として台湾へ渡り、烏山頭水庫を含む嘉南大圳により嘉南平野を肥沃な大地に変えた八田與一のことだ。

土木学会110周年記念事業の認定行事として、2024年12月5日～8日（3泊4日）に、土木学会土木広報センター主催による「台湾土木遺産視察ツアー」（視察企画・協力…土木広報センター、旅行企画・実施…近畿日本ツーリスト（株））を開催した。海外初の選奨土木遺産である「烏山頭水庫」（2009年推奨）、選奨土木遺産である「台南水

道」（2010年推奨）を中心に巡る本ツアーは5年ぶり10回目となる。参加人数は過去最多の25名であった。私とともに全行程をガイドしたのが、八田與一のアニメ映画『パッテンライ!!』を企画しこれまでの全ツアーをガイドしている緒方英樹氏である。緒方氏の長年にわたる台湾との親交により、烏山頭水庫では「八田技師夫妻を慕い台湾と友好の会」世話人代表の徳光重人氏、元嘉南農田水利会顧問、通訳の徐玲媛氏にご案内いただいた。

本人であるゆえんのエピソードのひとつである。土木技術者は橋やダムをつくるだけではない。その生きざまは友好の象徴になりえるのだ。

先人たちの思いを伝える物語

八田與一の大水利事業により地球半周する長さの給・排水路と、浜野弥四郎に学んだ三年輪作給水というハードとソフトにより、地域民の家族に笑顔をもたらした、生活様式は大きく変わった。このような八田與一や浜野弥四郎など土木技師の功績を巡るツアー行程とした。彼らの背景や理念に触れ、土木の原点とは何か、土木技術者の恩恵とは何かを考えさせら



写真1 徳光氏による八田與一の紹介

れる。

八田與一の銅像前では、彼の設計思想や貢献を徳光氏に紹介していただいた（写真1）。土木遺産がただの構造物ではなく、先人の思いの結晶であることを実感した。

さらに、国立台湾大学内に保存されている磯永吉の研究小屋を訪問した。そこには、台湾農業の父と呼ばれる農学者磯永吉氏と台湾蓬萊米の母と呼ばれる末永仁すえながについての展示がある。

台湾蓬萊米ほうらいまいとは、日本統治時代に品種改良されたジャポニカ米の総称で、台湾の米の別名である。元来、台湾の米は長粒のインディカ系だったが、これはジャ



写真2 旧放水路からの特別放水



写真3 台南水道の急速濾過装置室

ポニカ米。日本統治時代（1895～1945年）に両者が10年以上にわたって品種改良されたものだ。携帯食であるおにぎりは、パラパラとした食感のインデイカ米では作りにくい。もちもちとした蓬莱米を栽培することで、農作業などの外出時の携帯食に活躍したおにぎりを作ることができたそう。現地ガイドによる説明を通じ、磯と末永が開発した台湾蓬莱米がどのように台湾の農業発展に貢献し、人々の生活を支えたかを学んだ。台湾の食事がどれもおいしいのは、日本人の好みに合った蓬莱米のおかげであるのかと感嘆した。

土木学会主催だからこそ体験できる特別な感動

烏山頭水庫では、旧放水路からの特別放水（写真2）、ダム湖の特別クルージングを通じて、水利施設の規模感や構造の機能を体験できるプログラムを実施した。また、非公開エリアであるダム水路管のあるトンネル内部の見学では、施工時の技術的工夫を徳光氏が現場感あふれる説明で伝えた。このような充実したプログラムは緒方氏が長年かけて、台湾に足を運び、友好関係を築いていたからに他ならない。

台南水道は台南山上花園水道博物館と



写真4 表敬訪問時の集合写真

して、2019年にリニューアルされた（写真3）。土木技師のバルトン、浜野弥四郎、八田與一が水道の発展に貢献した技師として紹介されていた。館内ではARなどの技術も取り入れた展示などもあり、子供連れでも楽しく上水道を学べる広域公園になっている。

八田與一のアニメ映画『パッテンライ!!』をバス移動中に鑑賞し、初日の夕食後には、『土木偉人かるた』を用いた体験会を行い、バルトン、浜野弥四郎、八田與一など、台湾にゆかりのある土木偉人について遊びながら学んだ。

ツアーでの表敬訪問

本ツアーでは農田水利署や台南山上花園水道博物館への表敬訪問を行った（写真4）。現地専門家との質疑応答を通じ、台湾の土木遺産とその建設に携わった土木技術者が日台の友好を象徴する存在であることを再確認した。さらに、これらの土木遺産が観光資源として活用される現状も共有し、土木遺産が国際的な交流や未来への橋渡しの役割を実感した。

台湾の人々が日本人である八田與一を世代を超えて語り継ぎ、毎年供養しているのには深い理由がある。表敬訪問時の交流を通じ、その敬意や感謝の思いが今

も受け継がれていることを強く実感した。それは、「飲水思源^{いんすいしげん}」——「水を飲むときは、その井戸を掘ってくれたことに感謝する」という考えが台湾社会に根付いているからである。

アンケート結果とツアーの今後

ツアー参加者のアンケートでは、ツアーの総合評価が5点満点中4・9と、非常に高い評価を得ることができた。一番感動したこととして、「使われなくなった施設を改修し、学びの場や観光資源として活用していることにも感動した」、「八田與一氏の実績を現地の方々にこれだけ大切に保管していただいているということ、八田與一氏の人柄や実績あつてのことという以上に、非常にありがたく感じた」などの意見があった。今後のツアーの開催に対しては、「定期的に台湾の土木関係者と交流を持つことは、大変意義がある」、「土木事業が地域の生活に与える長期的な影響を体感する例として非常に有用」など前向きな意見が多かった。

土木学会ならではの体験ができる台湾土木遺産視察ツアーが今後も国際的な交流や未来への橋渡しの役割を担い続けることを期待している。